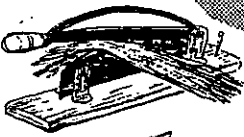


# 塗り壁の考古学

塗り壁文化発掘

— 村尾かずこイラスト展 —

『塗り壁の考古学』は月刊「左官教室」に55回にわたって連載されました。編集長の小林澄夫氏が取材したものを村尾かずこがイラストにし、全国の「出来事による建築、塗り壁」を紹介しました。土地場にある材料を上手に組み合わせで作った「出来事としての塗り壁」は左官の原点です。本展示では、原画をいくつかのイラストを数十点展示します。



### 塗り壁の考古学 25 土佐の窯灰の家

塗り壁文化発掘

土佐の石灰は江戸時代から「のび石灰」といって大阪に船積みされていた。土佐石灰の産地である前田市福屋ではいまだに石灰を焼いている。土佐石灰工場が近代化する以前石灰石の山の斜面に土中窯を築いて焼いていた。土中窯の構造は、煙道の石垣積み、クズ灰と窯場の底の土はわけておき、民家の前壁や垣根の石垣積みなどに使っていた。この窯灰はクズ灰といっても生石灰で、土に穴を掘り水でももいで清化したものを切り葉を入れた壁と違ったものである。この窯灰は泥で塗った壁の家が残り、その白色はあざやかな。この窯灰に泥を混ぜ石灰石を積みだした石垣に回された。民家の庭の風情は格別である。

#### 窯灰とその利用

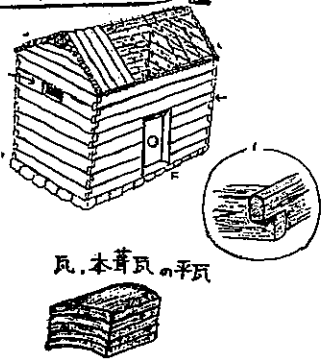
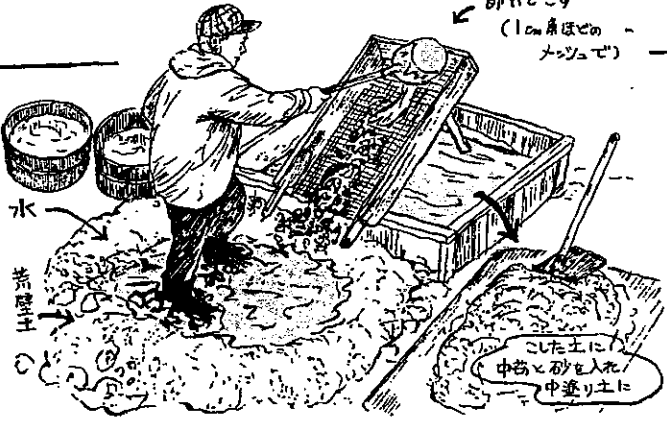
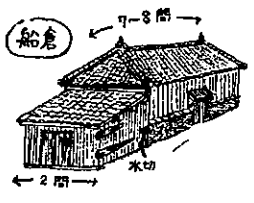
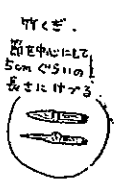
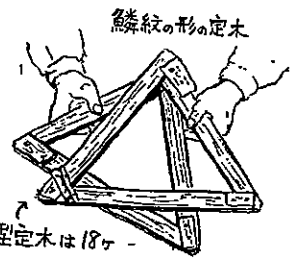
選別 (篩分け) 商品 肥料用 窯灰 (灰が焼けた後のクズ) は原料の石灰石の 23~24% 出る

#### <石垣積み>

石灰石や土中窯の耐火煉瓦の古煉瓦を洗い洗った三和(はんた)で護る

#### <窯灰による素壁塗り>

清化した生石灰は1日5℃で放置する



同時開催  
左官の本ミニフェア

小林澄夫氏スライドトーク 3月4日(土) 定員40名ほど  
(塗り壁の考古学取材写真とみながさ) 17:00 ~ 18:00

2017 2月27日(月) ~ 3月18日(土)  
平日 10:00 ~ 19:00 土曜 11:00 ~ 17:00 (日曜休業)  
場所 農文協ブックセンター 階段ギャラリー 4代田区神保町2-15-2 第一富士ビル3階  
(地下鉄「神保町」駅A6出口より徒歩30秒) TEL 03-6261-4760